

# Forest 通信 H30 12

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.358



## 高尾山の生きものたち

### ヤマメ (サケ科)



「溪流の女王」と呼ばれているヤマメ。沢の流れの中、この魚が見えるとなんだか嬉しくなる。すらっとした体型で、身体の側面が銀色に輝き、紺色の小判状の模様がある。

サクラマス仲間だが、海に下らないで、一生を上流の冷たくきれいな水で暮らす。普通、流れや石で見えないが、高尾付近の沢でも、緩い流れに見ることがある。主な食べ物は、水中の川虫や水面を飛び昆虫、木などから落ちる昆虫など。そのため、虫が多い落葉広葉樹林の溪流が育ちやすい。

昔に比べ、川の護岸や道路開発、針葉樹の植林などの影響でヤマメが棲みやすい川が減ってきている。このため泳いでいる姿を見ると、自然が残っているようで、嬉しくなる。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.39

### クルミ (クルミ科)

全国に分布する高木の落葉広葉樹で高尾山でもよく見かけます。

川沿いの湿った場所に生え、夏は大きな奇数羽状複葉を広げ、縄文時代から木の実は食べられてきました。名前の由来は、諸説ありますが「クルクル回る丸い実」の意味から、クルミになったとの説があります。

木材としてのクルミ材といった場合はオニグルミを指します。材質は、散孔材で硬くも柔らかくもなく目が真っすぐで、材として加工しやすいとされています。材色の濃さ、艶、木理などが好まれ、家具材・工芸材、壁・フローリングなど建築材に利用されています。比較的軽く、狂いや割れが少なく、油をよく拭きこむとつやが出て、ショックをよく吸収し反撥しないため、ライフルの銃床にも使われています。

また、砕いた木の実は殻をゴムに混ぜ利用してい

るスタッドレスタイヤもあります。

木の実はリス等小動物の重要な食料で、分散貯蔵されることで分布域を広げます。木の実の食痕がきれいに二つに割れていたらリスが、側面のど真ん中に円形の穴を開けていたらネズミが食べた痕です。(皿)



クルミの板



オニグルミの実



ネズミの食痕



リスの食痕

## 森林教室

### 横浜市立 下田小学校

11月9日（金）、横浜市立下田小学校4年生137名がバス3台に分乗して、森林ふれあい館を訪れました。この日の天気は、午前中が曇り、午後から雨となり、外で実施する「丸太切り」と「森林観察」は、午後から雨の降る中での体験と学習になりました。

午後からの「丸太切り」は、森林ふれあい館の上にある広場にブルーシートをテント張りして、6班に分かれて実施しました。初めてのノコギリを使った輪切りは、最初はぎこちなかったものの、2回目からはコツをつかんで3枚4枚と切った子どももいました。一方、森林観察では雨合羽を着用しての森林散策となり、午前中の森林観察とは違って、カエルやクモの出現に驚きの声を出しビックリしたり、喜んだりしていました。また、森林観察が終わったら、袖口や靴が濡れた子どももいて、さむい寒いといって森林ふれあい館のペレットストーブで暖をとっていました。

閉校式では、大人気の「丸太切り」の体験が楽し

かったこと、「地球温暖化を防ぐために自分にできること」や「森林は緑のダム働き」など地球規模での環境問題などを知ることができたことの感想があり、今後は森林・林業に少しでも、ふれあい、親しむこと。そして、森林の働きについて理解した1日となりました。（田）



テントの中で丸太切り



雨の中での森林観察



## 出前森林教室

### 北大和小学校カルチャークラブ講座

11月17日（土）、神奈川県大和市の北大和小学校へ出向き、「北大和小学校カルチャークラブ講座」に参加しました。当講座は、北大和小学校のPTAが主催、「ワクワク大冒険！広がる新しい世界～可能性は無限大～」をスローガンに、子ども達の夢を広げる体験やチャレンジする場を提供するもので、今回が18回目の開催です。当日は、センター職員2名、フォレストサポートスタッフ4名、PTA11名が指導にあたり、児童達は、2つの教室に分かれて、用意された松ぼっくりやドングリ、小枝等を使いそれぞれが思い思いの作品を作成していました。

今年は、昨年より9つ多い26の講座が設けられましたが、当センターが開催した「森のクラフト屋」は1年生から6年生までの児童49名が参加する人気ナンバー1の講座となりました。

できあがった作品はどれも素晴らしい出来映えで、子供達の発想の豊かさに、まさに無限大の可能性を感じた1日となりました。（谷）



じょうずにできるかな



バランスをとりながら組み立てています

## 第42回全国育樹祭

TOKYO 2018

11月18日(日)、武蔵野の森総合スポーツプラザ(調布市)において、第42回全国育樹祭式典が開催されました。会場内「TOKYO おもてなしコーナー」に関東森林管理局が出展、当センターも参加しました。

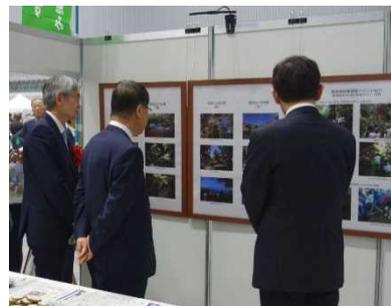
当ブースでは、国有林野事業と関東森林管理局の取り組みをPRしました。当センターは、写真パネルを使って高尾山の四季やセンターでのイベントを紹介するとともに、花炭・草木染の展示及び材鑑を使って樹木の比重を体験してもらうコーナーを設けました。展示だけでなく、当センターの紹介パンフを来場した関係団体職員へ配布し、所長自ら森林環境教育への参加などと呼びかけました。

また、農林水産大臣、林野庁長官にも当センターのイベントパネルなどをご覧頂きました。

会場に入場できるのは公募に当選した方と関係団体のみであったため、通常のイベントほど入場者はありませんでしたが、出展30団体のうち関東森林管理局ブースが一番人気だったようです。(高)



賑わう関東森林管理局ブース



当センターイベントの紹介パネル



人気の草木染めと花炭



ご利用ありがとうございました!

- 5月24日 目黒区 育英幼稚園 (45名)
- 7月13日 江東区 さんいく保育園有明 (13名)
- 7月 5日 八王子市立松木中学校 (20名)
- 7月 9日 墨田区 両国幼稚園 (18名)
- 8月31日 青梅市 かすみ保育園 (18名)
- 10月 3日 東京都立町田の丘学園 (34名)
- 10月 5日 昭島市 中神保育園 (27名)
- 10月12日 八王子市 テクノすくすく保育園 (6名)
- 10月26日 調布市 みゆき保育園 (21名)
- 11月 7日 世田谷区 みんなのおうち保育園 (24名)

※許可をいただいた団体のみ掲載しています。



どれも力作。

素晴らしい作品ができました。

来年も皆様のご利用お待ちしております。

## 公募イベント

### つるかご編み

11月10日（土）、高尾森林ふれあい推進センターにおいて、20名が参加して公募イベント「つるかご編み」を実施しました。

つるかご編みは毎回人気の高いイベントで、今回も募集20名に対し89名の応募がありました（落選された方申し訳ありません）。

天候も良く暖かい日でしたので、開会式は外で実施。庁舎前に山積みされたつるの前で所長挨拶と注意事項を説明、続いて実演を交え作り方の説明を行いました。編み始めの最初の部分が重要でずとの説明を受け、参加者の皆さんは真剣に編む状況を見つめていました。

説明が済んだところで、各自が目指す作品に必要な太さ、長さのつるを選び出し、早速編み始めです。最初は苦勞しているものの、職員からのアドバイスや参加者同士での工夫点などを参考にしながら皆さん順調に編み上げていきます。昼の休憩時間では昼食もさっと済ませ、ひたすら編み上げていく方もいらっしゃいました。

作成時間終了後、作品を並べ参加者一人一人から作品についての思いや作成にあたっての感想を述べて頂きました。「果物を入れるかごが欲しかった。ちょうど良いサイズのかごができてうれしい。」「自然のつるでかごを編むのは夢でした。参加できてうれしい。」「できあがっていく姿を

見ながら作るのが実に楽しい。」等の声が聞かれ、皆さん満足されたようです。

できあがった作品は皆さんにお持ち帰りいただきました。今回の作品が、皆さんの生活の一コマに潤いを与えることになればうれしいです。（高）



編み方の説明を聞く参加者の皆さん



職員のアドバイスも受けつつ編み上げ



一人一人、作品への思いを語っていただきました



できあがった皆さんの作品

#### 編集後記

花の時期はほぼ終わり、紅葉も終盤ですが、木の実はまだ見ることができる時期です。

皆さん、高尾山へおいでください。



マンリョウ



ヤブムラサキ

#### Forest 通信 NO.358

発行 林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先  
林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター  
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1  
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

